



報告会後のなべっこ
おいしめ料理を振る舞って
頂きました



各班とも発表お疲れ様でした

学生たちもしっかりと話を聞いています





旭町防災委員会のみなさんとの集合写真



ソーラークッカー



段ボール間仕切り



中間発表会



おつかれさまでした！！



まち歩き



夕食後の雑談会



デザインゲーム

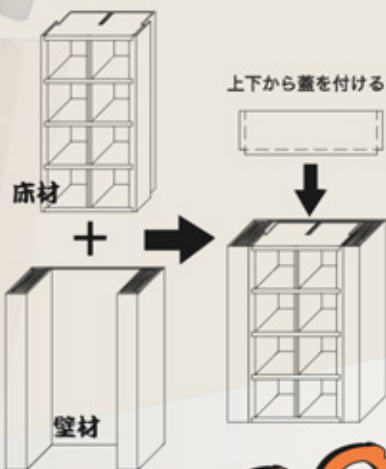
避難所用 間仕切り

Cardboard Partition For Shelter

建築・都市アメニティグループ
 B10C010 大塚 洸
 B10C012 小笠原 聡美
 B10C041 山北 拓冬
 B11C013 工藤 美紗子

およそ3m×3.2mの3人用避難間仕切り。
 国連難民高等弁務事務所定める難民キャンプの
 設置基準が一人当たり3.5㎡であることから、
 それを参考に一人当たり3.5㎡と避難初期から
 一定のプライベートスペースの確保を目的とした設計。
 普段は1.2m(幅)×1.6m(高さ)の本棚として利用できる

組み立て図



¥70000
 ※材料のみの金額

11 夏季集中研究

ソーラークッカー一班

木村洋子
 伊藤正太
 佐藤奈々
 森下諒
 高山あずさ

ソーラークッカーとは…

レンズや反射鏡を用いて集光した太陽光を黒い鍋などに照射して得られる太陽熱を利用して調理を行うもので、燃料が不要な調理法。



パネル型 箱型 パラボラ型

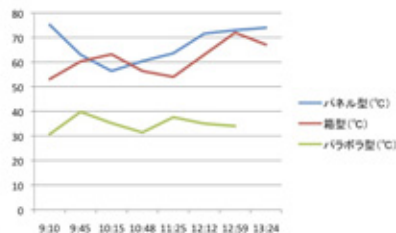


実験当日 (2011.9.11) の様子

9月11日(日)



最高気温30.8℃ 最低気温18.3℃
 露点温度21.1℃ 湿度60%
 風向き南東 風速4m/s
 現地気圧1016.8hPa 海面気圧1019.3hPa
 降水量0.0mm 日の出5:16 日の入17:56



完 成



間仕切り -切り取り-

Partition proposal -cutting-

No.1

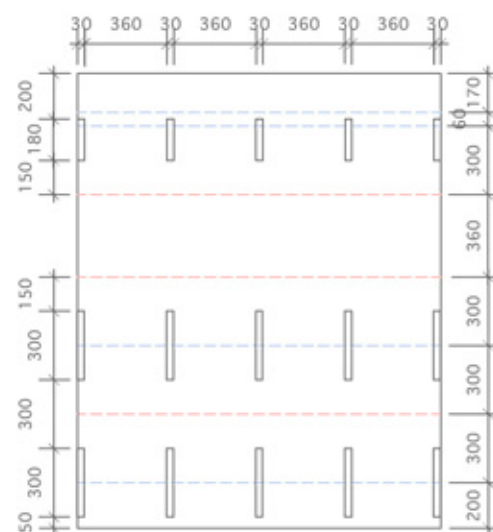
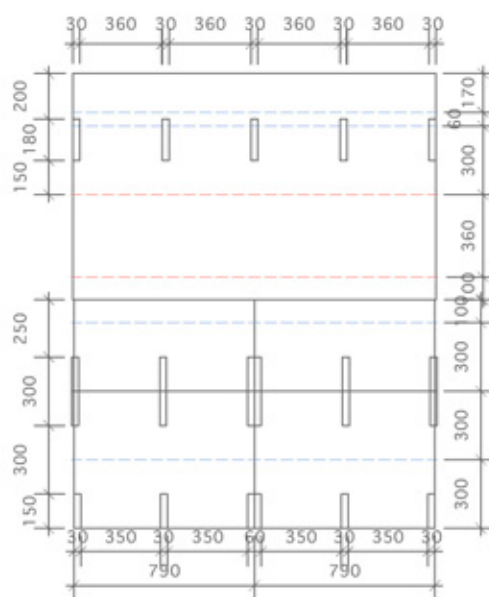
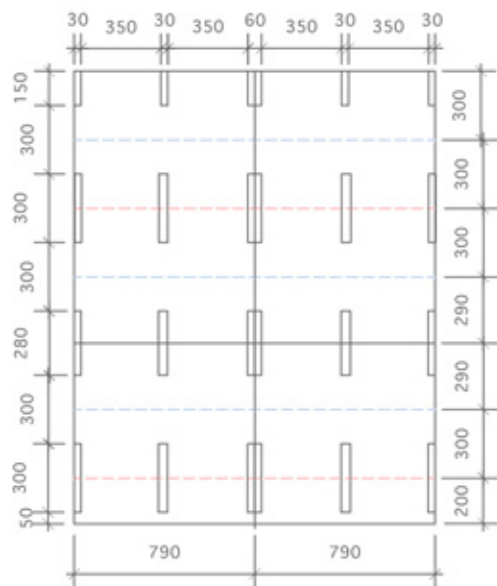
----- : 山折り

----- : 谷折り

————— : 切り取り



【床】 1/20

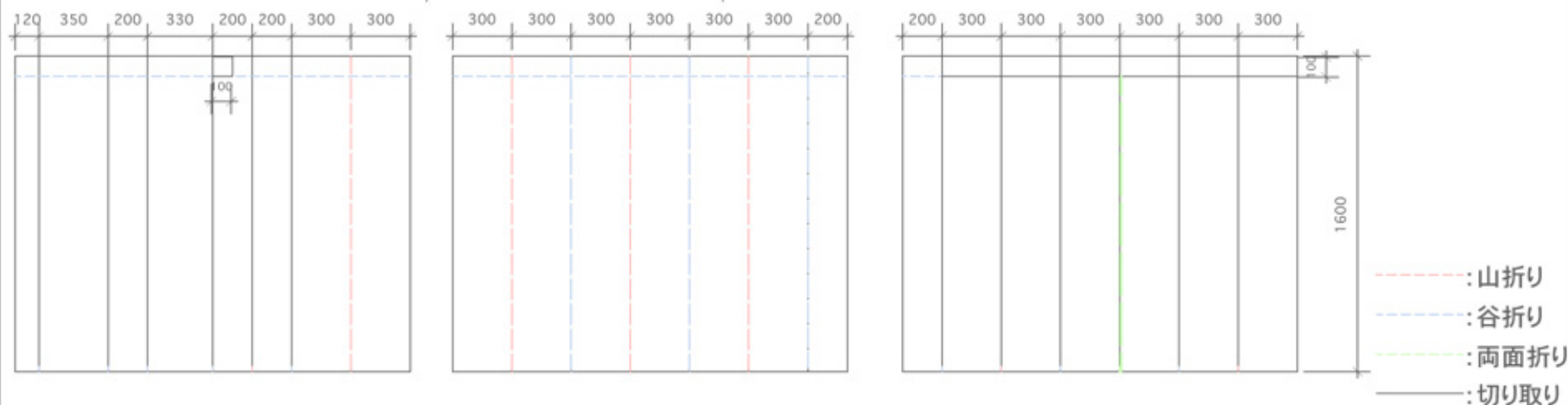
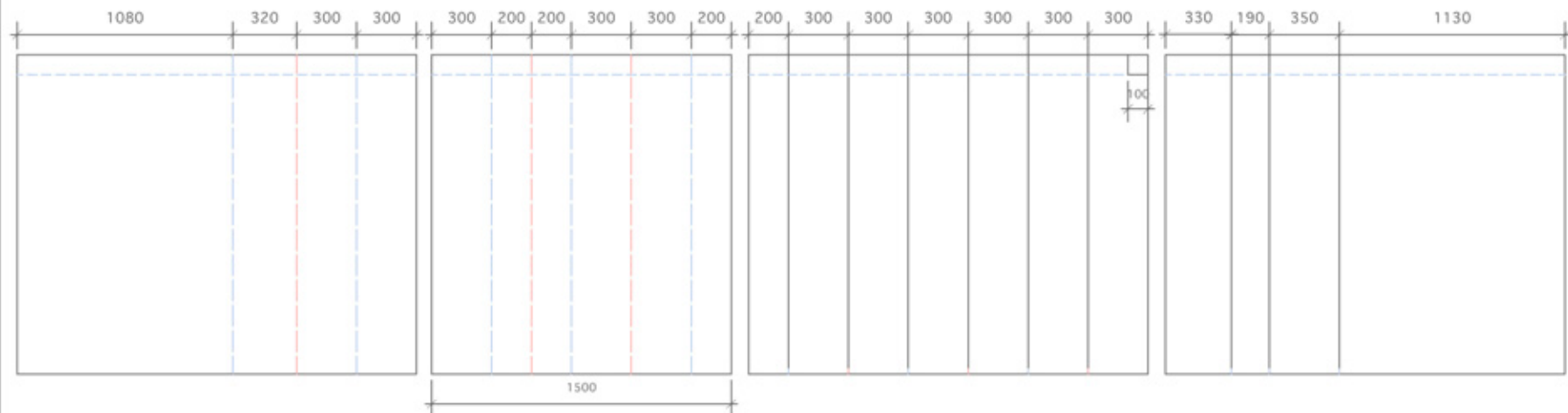


間仕切り -切り取り-

Partition proposal -cutting-

No.2

【壁】 1/20



- : 山折り
- : 谷折り
- : 両面折り
- : 切り取り

間仕切り -展開-

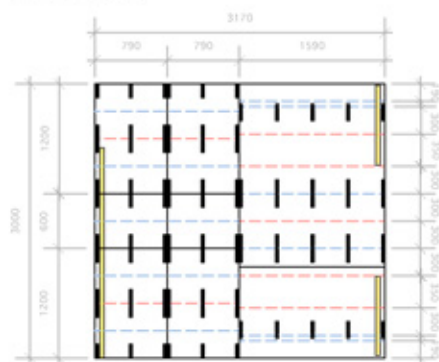
Partition proposal -expansion-

No.3

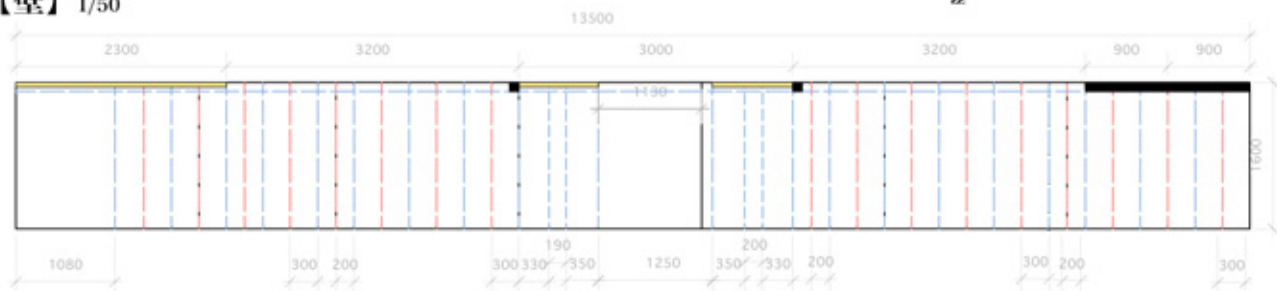
- - - : 山折り
- - - : 谷折り
- : マジックテープ

【組み立て】 1/20

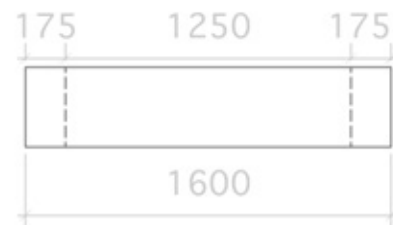
【床】 1/50



【壁】 1/50



上下から蓋を付けます



- : マジックテープ

夏期集中研修

-まち歩きと防災マップ作成-
-デザインゲーム-

デザインゲームと施設街並み提案班

D4 佐藤直樹 北山絵梨奈
D3 郷内陽平
M2 立花葵

防災マップ作成担当

D4 佐藤直樹 北山絵梨奈
D3 佐藤奈々 森下諒

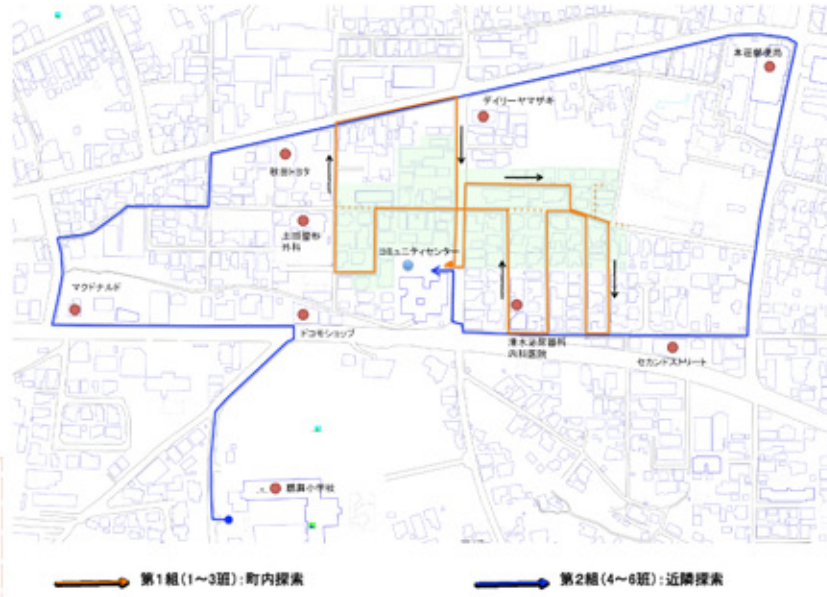
1. まち歩き

●目的と作業内容

まち歩きの目的は、地域の特徴と特性を把握することである。

住民1人に対し学生が2~3人ついてサポートしながら行われた。

住民が指摘した箇所について、学生が地図上に場所とメモを記入し、写真の撮影を行った。



●結果

まち歩きを行ったことで、普段何気なく生活している場所でも災害時には危険箇所となる可能性があるということを旭町の住民の方々が再認識していた。まち歩きの結果をもとに防災マップの作成を行った。



2. 防災マップづくり

●目的と作業内容

防災マップづくりの目的は、地域の特性・特徴を明確にすることである。

住民の方が主体となり防災マップ作成のレジュメに従って作業を進めた。

学生は書き込みの補助とまち歩きで撮影した写真の印刷を行った

-地図へ書き込んだ4つの項目-

- 地域のつくりをつかむ
-オープンスペース、狭隘道路など
- 地域の物的特徴をつかむ
-地域防災に役に立つ施設など
- あらゆる災害の可能性の把握
-浸水や土砂の可能性がある場所
- あらゆる災害の可能性の把握
-災害時に使えなくなる道路など



●結果

まち歩きの結果を踏まえ、住民の方にまちの現状を思い出してもらい防災マップを完成させた。その結果、災害時に危険になる箇所などの確認ができた。それらをまとめた地図を防災マップとして右ページに載せている。



砂子下町防災マップ

■ 広場・公園・オープンスペース	● 災害時要援護者のいる世帯
■ 水路・用水・河川などの自然利水	● 公的避難所や災害時の拠点
■ 浸水時に駆け込みのできる建物 (ビル・マンションなど)	● 地域防災で役立つ施設・場所
■ 幅員の狭い道路、使いにくいと思う道路	● 特に危険となる設備・箇所
■ 浸水する、過去に浸水した箇所・範囲	● 消火栓
■ 冠水して使えない道路・土砂災害で使えない道路・危険な道路	

砂子下町防災マップ

消防車などが通れない狭い道

トヨタ

ブロック塀

高いRC造の建物 災害時逃げ込める

通のついていない側溝

砂子下コミュニティセンター

空き地

災害時 拠点となる建物

井戸がある 水の確保

コンビニ

グランマート 食料・雑貨など

水が集中して 氾濫する可能性

通のついていない側溝

傾いている ブロック塀

落石が落ちてきて 危険

産婦人科

病院・薬局 災害時のけが人救助

合同庁舎

傾いている 電柱

災害時 逃げ込める建物



街並み施設提案



I. 防災公園

- 1 防災公園全体図
- 2 かまどベンチ
- 3 避難誘導サイン
- 4 防災パーゴラ

①防災ベンチ

防災ベンチは、通常時は「ベンチ」として利用するが、非常時は「かまど」として利用できるものである。

②避難誘導サイン

避難誘導サインは避難の際に逃げる方向などについて示した看板であり、

鶴舞小学校への避難経路や、防災公園の説明などが記載されている。

③防災パーゴラ

防災パーゴラは、通常時は「休憩場所」として利用するが、非常時がビニールシートで覆うなどしてテントとして利用できるものである。

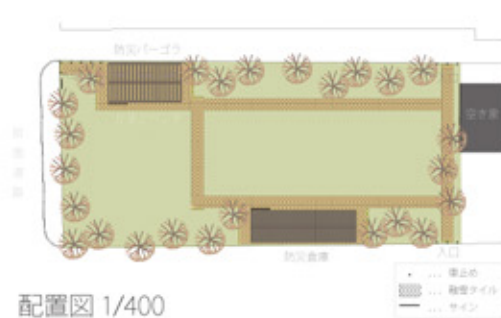
④広場

広場は、通常時は子供たちの遊び場や町内のイベントとして利用するが、非常時は避難場所として利用できるものである。

⑤防災倉庫

防災倉庫は非常時に使用する備品が

保管されているものである。この備品はコミュニティセンターに保管されていないものや、支援物資を想定している。

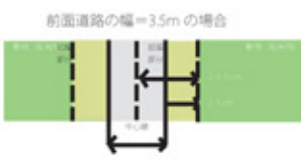


II. 避難経路

- 1 旭町ロード全体図
- 2 歩行者専用通路
- 3 旭町ロードの現状
- 4 スロープと階段

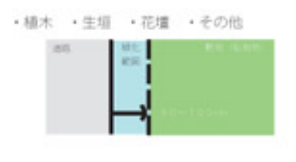
①道路幅の拡幅

建築基準法第42条第2項の基準が適用されている道路幅員が4m未満の道路に接している敷地は、セットバックを行うことで、幅員を4mとする。



②1m範囲の緑化

敷地と道路の境界から50~100cmの範囲を緑化する。そうすることで、景観を揃える。緑化の方法としては、次のような方法がある。



③緑化部分の供用化

緑化範囲の一部を、供用スペースとして利用する。でも決して十分とは言えないため、敷地内の緑化スペースを供用スペースとして提供してもらうことで、歩行者のための空間をつくりだす。



④供用のイスの設置

供用範囲に、イスを設置することで散歩中の休憩場としてたり井戸端会議のたまり場となる空間を提案する。この案は、一寺宮間の「寺島のみち」を参考にしている。



⑤道路の舗装



①~④の計画と同時に、歩行者用と自動車用とで色分けを行う。こうすることで、自動車や歩行者または自転車が意識的に道路を通行するようになると思われるため、安全の向上が期待できる。



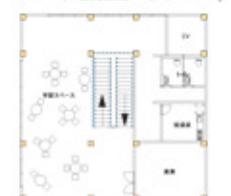
III. サロン

- 1 サロン全体図
- 2 和室
- 3 学習スペース
- 4 カフェ

F1 平面図 (1/200)



F2 平面図 (1/300)



F3 平面図 (1/300)



①学習スペース

普段は学習スペースとして利用する。勉強をしたい小学生~高校生が集まり一緒に勉強する場所となる。小規模の展示会を開く際は、展示スペースとして貸し出しを行う。この建物を足を運ぶきっかけとなることを期待する。災害時は、待機場所や物資の保管場所として使用する。

②和室

和室や会議室など、人が集まって話し合いや、集会などを開催する際に主に使用する。町内だけでなく、町外の人にも貸し出す。普段は使用しない想定なので、最上階に配置してある。災害時は、避難場所や物資の保管場所として使用する。

③カフェ

仲間内で集まって、おしゃべりをする場としても利用する。若い世代が、ここを利用する事で賑わいが生まれることを期待する。町内の人々が集まり、食事会なども開催できる。公園の様子を見ることが出来るため、母親が利用する事も考えられる。災害時は、随時の調理場として機能させる。